函館のまちづくりを考える
はこまち通信

2008
第7号

発行 ： 函館市地域交流まちづくりセンター
http://www.hakomachi.com/

TAKE FREE
ご自由にお持ちください！！【 無 料 】

昭和5年5階建改築、エレベーター新設
写真：函館市中央図書館所蔵

昭和9年大火後改築
写真：函館市中央図書館所蔵

昭和45年以降の分庁舎時代1台が倉庫に
写真：函館市中央図書館所蔵

平成19年まちセン開館後

もくじ

- 特集 はこまち対談
～函館での学生生活4年間～
- シーニックバイウェイ北海道
- 開明都市函館の遺産「重要文化財」（その2）
- 函館のＮＰＯレポート！
- 開港150周年記念事業について
- 「まちのチカラ」サポートデスク ～始めよう！「自分らしい生き方」さがし～
- センター長のつぶやき

はこまちプレイバック 特別編
「エレベーターの沿革」の巻

～函館は昭和１０年まで東北以北最大の人口を抱えた大都市でした。当時の函館は、北洋漁業の集約地としてこの西部地区が繁栄の中心地として栄えていた頃です。昭和９年の大火で、この丸井今井百貨店も建物が被災し、それにもめげず以前にもまして建物も豪華に改築しています。

当時、函館が街として復興できる財力を持っていたのでしょう。

戦後北洋漁業が再開されましたが、戦前ほどの息吹はなく、この西部地区の商店の中核である丸井今井デパートが昭和４４年五稜郭に移転します。そして昭和４５年に市の分庁舎となります。

エレベーターの姿もこの時代の流れをよく示しています。

平成２１年はいよいよ開港１５０周年です。平成２０年１０月に開港五都市景観会議が函館において開催されました。横浜を始め神戸・新潟長崎の関係者が来函しましたが、この４都市全てが県庁所在地であり人口も増加し財政的にも豊かな都市です。ミニバル街開催のため集合場所であるまちセンに集まった関係者をエレベーターに乗せたところ、こうしたものが残り稼働している事に驚き感動していました。財政が豊な都市ほど新たな都市形成のため古いものが失われていく時勢、幸か不幸かこうしたものを大事に残していくのが函館の未来につながるのですね！（Ｍ・Ｓ）

特集 はこまち対談

Part 6

～函館での学生生活４年間～

嶋村　幸子 さん

〈PROFILE〉

１９８６年生まれ。滋賀県出身。
北海道教育大学函館校情報社会教育課程
社会文化情報コース４年
来春より、出身地の滋賀で国語教諭になる。

滋賀県から函館にやって来て、様々なまちづくり活動にも参加してきた北海道教育大学函館校4年生の嶋村幸子さんに、まちのことや学生生活の話をうかがいました。

丸藤：来春卒業ということですが、函館での学生生活はどうでしたか？

嶋村：何かしらいつもやっていて、すごく忙しかったなと思います。

丸藤：何でそんなに忙しかったんですか？

嶋村：教員養成課程でない中で教員免許を目指したので授業も多かったし、１、２年生の頃はモダンダンス・クラブの練習も毎日夜遅くまででした。それに、まちワーク研究室での活動も行いました。学生時代は色んなことができると思っていたし、やってみたかったんです。ただ、予想以上に忙しくなってしまって・・・もっと遊びたかったですね（笑）

丸藤：3年生の時は、教育大学のまちワーク研究室で行っている「じろじろ大学」という活動の実行委員長として活躍しましたね。

嶋村：モダンダンス・クラブが体調の関係でできなくなった時、声を掛けてもらいました。

丸藤：どんな活動をしたんですか？

嶋村：子どもたちと地図作りをしました。学生達だけで決めちゃうのではなく、子どもたちと、どんな活動をしたいかというところから始めて、「地図を作りたい」ということになったんです。

丸藤：それはいいですね。

嶋村：フィールドワークで西部地区を中心に歩いたり、子どもたちなりに個人調査をするようになったり。

丸藤：子どもたちが自分で調べるんですか？

嶋村：はい。例えば、坂についてとか、景色について、といった感じでテーマを決めて、大学生が一緒になって歩いて調べて、最後はまとめまでやって、発表しました。

嶋村氏と丸藤センター長

丸藤：それは楽しそうですね。

嶋村：月に１回のペースで行ってきました。その回が終わると、すぐ次の回の準備をしなきゃだめだったし、学生スタッフの調整もしなきゃならないし、けっこう大変でした。でも、とにかく子ども達と一緒に活動できること自体が楽しかったですね。

丸藤：子どもが好きなの？

嶋村：はい。大好きです。可愛くて。しかも子どもたちが、最初の５月に出会った時と最後の発表の２月の時を比べると、やっぱり顔つきが違ったり、函館の見方が変わったり、友達とのコミュニケーションのしかたなども変化していて、そういう姿をみると楽しいし嬉しいです。

丸藤：嶋村さん自身も変化しましたか？

嶋村：経験そのものが、もの凄い財産になったと本当に思います。最初は、自分にできるかなと不安でしたが、色んな人に助けられた経験は誰もができることじゃないですし、つながりや出会いも得ました。

丸藤：函館の印象は？

嶋村：私、散歩が好きなんですけど、歩いていて気持ちの良い街だなと思います。西部地区は特に、ただ歩いているだけなのにその時々によって街の表情が違って見えるし、景色もきれいですし、ゆったりしているし。
それに、ちょうどいい大きさで、学生がまちづくりに参加しやすい環境があります。

丸藤：故郷は滋賀県ですよね。

嶋村：函館に来て、まちのことを考える機会がすごく多かったんですが、それを通して逆に滋賀のことを何にも知らなかったんだと痛感しています。卒業後は滋賀に帰りますが、函館で養ってもらった目で地元のことを見て、もっと地域に関わっていきたいと思います。

丸藤：中学校の国語の先生になるんですよね。

嶋村：はい。理想的な先生になれるよう頑張ります。それに、地域とのつながりも大切にしていきたいです。地域のことをちゃんと知って、誇りをもてる子どもたちに育てることが大切だと考えています。理想論かもしれないけど、やれることはやってみたいと思っています。

丸藤：同年代の学生に、函館で楽しい学生生活を送るためのコツを伝授してください。

嶋村：大人の人達といっぱい関わることは、すごく大事で大切だと思いました。地域に出て行くと何かしらつながりや広がりができて、勉強になります。大学の中に居るだけでは学べないことがたくさんあります。まちを歩いて、たくさんの大人の人と知り合って、お話をして、色んなものを吸収していけると、凄い４年間になると思います。

丸藤：これからの夢は？

嶋村：めちゃくちゃ未熟者なので、できることはまだ少ないですけど、家族や友達にも支えられながらですが、できることをやろうとする積み重ねで、今の自分がある恩返しを少しずつでも地域や社会にしていきたいですし、しないと嫌だなと思います。

丸藤：函館での経験を回りの人に話すことも、恩返しのひとつですよね。

嶋村：それはもう、たぶん、めちゃくちゃ言い続けると思います。うるさいくらいに（笑）

〈聞き手〉
函館市地域交流まちづくりセンター長

丸藤　競

まちづくりセンター１階のおすすめ散策ルートでは、
函館・大沼・噴火湾ルートの旬の情報をご紹介しています。

シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

シーニックバイウェイ北海道　地域交流会議「全道フォーラム2008」が開催されました!

シーニックバイウェイ北海道が本格的に始動し4年目を迎え、本年5月には新たなルート指定も行われ、指定ルートが合計7ルート、候補ルートが4ルートとなりました。
本年の全道フォーラムは、一層の活動の活性化を目指して、全道の活動団体や関係機関の参加により、各ルートの活動実績とその知識、経験を各地域間で広く共有すると共に、スキルアップの場として開催しました。

○シーニックバイウェイ　セッション
各ルートごとの活動紹介

○基調講演
筑波大学教授の石田東生先生による「シーニックバイウェイ北海道の目指すべきもの　～米国の取組と全国の注目事例を考えて～」と題する基調講演

○ポスターセッション
ディスカッション形式によるルート紹介

○その他
交流会、全道ルート代表者会議、シーニックワークショップ

シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」のHPが完成しました!

シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」に参加している団体の活動情報などが掲載されたルートHPが完成しました。まだまだ掲載情報は少ないですが、お時間のある方は下記URLまで是非アクセスしてみて下さい。

http://dounan-byway.com/

開明都市函館の遺産「重要文化財」（その２）

中尾　仁彦　箱館歴史散歩の会主宰
第1回 函館検定 上級試験合格

昨年「中空土偶」が北海道第1号の国宝に指定され、私たちは函館の文化財に対して認識を新たにしました。歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを総称して有形文化財といいます。そのうち重要なものを「重要文化財」と呼び、さらに世界文化の見地から特に優れたものが「国宝」となります。開明都市函館に「重要文化財」は7件あります。その歴史を3回に分けてご紹介します。

３．旧函館区公会堂

昭和49年、重要文化財に指定された「旧函館区公会堂」は、明治後期の函館の文化を今日に伝えている洋風建築の代表作です。明治40年の大火で町会所や商業会議所が焼失したため、明治４３年に函館区（現函館市）は、集会所、商業会議所、ホテル（実際は使用されず）を包括した建物として建築します。建築総費用は什器備品込みで推定7万３千円、現在の約１６億円に相当し、自身も大火で住宅・店舗を焼失にもかかわらず、費用の大部分の5万円を寄付した豪商・初代相馬哲平の協力がなければ建築は不可能でした。

函館区の土木課の二人の役人は、大規模な洋館を外国人の指導を一切受けず設計・監督を成し遂げ、幕末・明治から近代都市として発展を重ねた函館人のレベルの高さを証明しました。高龍寺で実績のあった村木甚三郎が建築を請け負いました。木造2階建ての洋風館は、アメリカの植民地時代に公共事業に用いられたイギリスのコロニアル・スタイルで左右対称形です。函館は相次ぐ大火を経験したため、火に強いレンガ造りの土台で、正面にはバルコニーと三角の破風飾、屋根窓さらに3ヵ所の玄関があります。これらを木造の円柱が支え、柱頭に装飾が施されたコリント方式です。

内装は古代ギリシャやローマで多く使用されたアカンサスをあしらった装飾で、貴賓室と応接室の壁、天井とも壁紙はイギリス製、カーテンは西陣織、シャンデリアはフランス製、マントルピースのタイルはイタリア製、また廊下のリノリュームも輸入品と内外の最高級品をふんだんに使用しております。細部には和風建築も加味され、明治４４年、皇太子（後の大正天皇）が貴賓室に宿泊された際には、トイレ、風呂場が増築されました。品質の高い家具類は、函館の職人が短期間で作ったそうです。

多くの区民が楽しんだビリヤード室や地元の名士がダンスパーテイなどで交流した柱が一本もない大広間（１３０坪）は、社交場としてハイカラな函館の歴史を刻みました。バルコニーから見る港と坂は絶景で、夜間照明に浮かぶ姿は気品に満ち溢れ、函館のシンボルとして多くの観光客が訪れております。

４．函館ハリストス正教会復活聖堂

函館ハリストス正教会復活聖堂は、安政６年（１859年）に初代ロシア領事館の付属聖堂として建立された日本のハリストス正教会の発祥の地です。明治５年、函館領事館は東京に公使館が開設されたため廃止となり、教会は正式に独立します。

初代司祭は病気のためすぐに帰国。文久元年（１８６１年）に来函の2代目司祭ニコライは、聖歌を歌う正式な礼拝を日本最初に始め、また明治元年にキリスト教弾圧下に３人の日本人を密かに洗礼します。アメリカに脱出の新島襄や榎本軍の脱走兵・五島軒の五島英吉も匿い援助しました。明治5年に東京ニコライ堂に転任するまでの8年間、住民と親しむため、国語、日本の歴史を熱心に勉強、倒産した古本屋を丸ごと購入したほどです。

初代聖堂は明治４０年の大火で焼失、大正５年、敷地２１００坪に再建された現在の聖堂は、基礎は石積み、壁体は赤煉瓦3枚に漆喰施工、また緑色の銅版屋根は科学的に熟成されています。大きなドーム型の屋根はロシア風ビザンチン様式で、屋根には数多くの十字架が設置され、５のクーポル（冠状構造）は、４人の弟子が真ん中のキリストを囲んでいることを意味します。内部は円天井で、聖障（イコノスタス）のイコン（聖像）はロシアからのもの、また明治１０年代にイコンを学びにロシアに渡った山下りんの「十二大祭図」があります。大十字架は火事の際に持ち出しに成功した初代聖堂のものです。聖堂の２代目の鐘は、大正１２年の関東震災で壊れた東京ニコライ堂に移され現存、３代目はその音色から「ガンガン寺」と市民に呼ばれ、また現在の5代目は「日本の音風景１００選」に認定されました。
聖堂は昭和58年に重要文化財の指定を受けました。

最終回の次号は「遺愛学院本館・旧宣教師館」、「北海道志海苔中世遺構出土銭」と「大谷派本願寺函館別院」をご紹介します。

函館のNPOレポート

函館には現在約 400 以上の市民活動団体があり、
実にさまざまなジャンルの活動が行われています。
その中からピックアップしてご紹介します。

01 NPO法人 ケアマネジャーネットワーク函館

皆さんこんにちは、愛称『けあまねっと函館』です。

私たち介護支援専門員は、介護保険法に基づいて、利用者の意向を尊重し『その人らしく自立した日常生活の実現』を支援する専門職で、知識・技能と倫理の向上を図るために研修会を開催しております。

また、利用者が地域社会の一員として地域（在宅、施設等を問わない）で暮らしができるよう、他の専門職及び地域住民との協働を行い、地域ケアを推進し、より良い社会をめざしております。

その一環として、「認知症サポーター100万人キャラバン～認知症サポーター養成講座～」を開催しておりますので、企業・団体・町会・友人知人など興味のある方は是非ご連絡下さい。
もちろん無料です。まってま～す。

NPO法人ケアマネジャーネットワーク函館
〒040-0073　函館市宮前町27番11号
ケアプラザ新函館・たけだクリニック
電話0138-62-3100　FAX0138-62-3060

02 子どもの権利ネットワーク南北海道

子どもの権利条約の理念を多くの市民に知らせる活動をしています。これまで「子どもの権利について学ぶ学習会」や「子どもの今を語る集い」、「子どもの遊びと権利を知らせるフェステイバル」を年間通して続けてきました。

特に今年１０月に行われた「子どもフェステイバル２００８」では子ども２３０名、会員・地域サポーター５０名が一堂に会し、大人も子どもも一緒に遊び、「子どもの元気は遊びから大人の元気は子どもから」のテーマを実感する楽しい集いになりました。

今後も、子どもは大人と未来の社会をつくるパートナーとして共に活動を続けます。将来的には子どもの命を守る権利条例制定を目指します。

子どもの権利ネットワーク南北海道
〒０４０－００５３　北海道函館市末広町４番１９号　函館市地域交流まちづくりセンター内
ＴＥＬ０１３８－３１－８０８５　ＦＡＸ０１３８－５６－００８４　E-mail: c-right@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/c-right/

03 NPO法人 ソーシャルエージェンシー協議会

本協議会では、地球環境や食の大切さ、CO2削減の新エネルギー普及活動、EM菌（有用微生物群）とミミズを活用した生ごみのリサイクル、特殊肥料づくりを通して、農薬や化学肥料に頼らない循環型社会の構築を目指しています。

エコハ大学開校　学長　鈴木克也（公立はこだて未来大学教授）

ー函館で環境と食、循環型社会の構築を学ぶー

「エコハ大学」消費者、技術者、生産者、学生など参加し、環境活動や食の大切さを学び実践に取り組み、道南のものづくりとブランドづくり、情報を共有し行政にも提案して実現に向け、発展的エコハ大学を目指します。

１，道南製品ブランドづくり（プロジェクトチーム）

２，水、植樹、環境づくり（プロジェクトチーム）

【年会費】一般個人　3,000円　法人　10,000円

学生手帳発行、入学はいつでも参加自由　現在募集中！！

ＮＰＯ法人ソーシャルエージェンシー協議会

電話（０１３８）４５－７７５７　／　ＦＡＸ（０１３８）４４－２３８８

04 ヨットスポーツ少年団 函館ジュニアセーリング倶楽部

函館ジュニアセーリング倶楽部は、「ヨットを通じて子供たちの健全育成」をめざして、1967年函館ヨットスポーツ少年団として、江ノ島クラブに次ぐ全国2番目に創設されました。

海洋スポーツ「ヨット」は、子供たちの教育に極めて有効であることが証明されております。

「海という大自然に親しみヨットで帆走することを体験し操縦等の知識を得る」ことによって自らの行動に自信を持って進む判断力と自立心を養い仲間との活動を通して協調性を高めます。「子供たちの生きる力を育む」函館ジュニアセーリング倶楽部の実践目標でもあります。

函館ジュニアセーリング倶楽部

代表者：井ヶ田嗣治

加入条件：小学生4年から高校3年に準ずる年齢の子供たち

連絡先：昼間　電話　0138-56-5255（丸山園）

函館市地域交流まちづくりセンター　事務ブース

電話０１３８－２２－９７００

05 NPO法人 北海道マンション管理士会

北海道マンション管理士会は、道内のマンション管理士で作っている特定非営利活動法人です。マンション管理組合の運営や居住者へのアドバイザーとして活動する一方、管理組合と管理会社、管理組合と居住者、居住者間のトラブルの相談の他、マンション購入予定者へのアドバイスなど皆さんが安全、快適なマンションライフを送るため活動しています。

管理士会は、定期的な無料相談会や、電話や面談による相談を随時受けておりますので、お近くの会員までご相談ください。

会員には、司法書士、建築士、獣医師、宅建主任者、元銀行員など種々の資格、経歴を持ち活動されている者もおりますので、問題ごとに専門的な解決方法をアドバイス出来ます。

また、会員同士では、毎月テーマを設け研修会を開催し、研鑽に勤めており、行政による各種の相談会、セミナーへの講師の派遣なども行っています。

現在、会員は、６２名で函館には、成田勝彦（船見町　電話22-0007）、水戸孝夫（末広町　電話27-2241）、前田幸代（上野町　電話84-8301）の３名が活動しております。

ＮＰＯ法人　北海道マンション管理士会

http://www.kita-mansion.com/

06 函館の歴史的風土を守る会

市民に支えられ30年がたちました！！

歴風会発足の経過

●昭和52年秋函館市の文化保護委員会は旧渡島支庁舎札幌移転することを決定

●昭和52年（1977年）9月28日付道新に田尻女史 の投書が載る
（この投書を基点に旧渡島支庁の　移転問題の賛否が市民レベルでされる事態が発生した）

●昭和53年1978年）4月22日歴風会創立総会五島軒に97名が参集し結成された

歴風会の今年度取組み

●2月17日第30回チャリティパーティ
（於：五島軒）第24回
歴風文化賞発表

●3月12日第5回ふるさと写真コンクール（電車内にも展示）

● 6月22日　平成20年度
定期総会

（浜島旧会長も出席、発足当時のエピソードを語り今後の活動を激励するなど、歩くのには不自由そうですが口の方はかろやかでした。）

●8 月15日創立30周年
記念誌
「函館の歴史と風土」
を発刊

●10月10, 11, 12開港5都市景まちづくり会議函館大会函館集会に参加　　● NCVと連携し"残したい函館"を製作

函館の歴史的風土を守る会

〒040-0001　函館市五稜郭町43-9　電話0138-51-4785　（五稜郭タワー㈱内）
URL: http://www2.odn.ne.jp/hakodate/rekifukai/top.htm

開港１５０周年記念事業について

２００９年は函館が国際貿易港として諸外国に開かれてから１５０周年の節目に当たります。この「開港１５０周年」という歴史的な年を祝うため、昨年から函館市と各機関・団体などからなる函館開港１５０周年記念事業実行委員会が組織され、市民ボランティアスタッフとともに様々な企画が進められてきました。２００９年８月８日から１６日までの期間に緑の島をメイン会場に大規模なイベントを開催することも決定し、現在詳細を検討中です。

＜シンボルマークについて＞

函館開港１５０周年の公式シンボルマークは簡単な申請をするだけでどなたでもご使用になれます。また、同様の申請でイベントその他の事業に「開港150周年記念連携事業」の冠を付けることも可能です。どちらも費用負担は発生しません。申請については公式サイト「ハコダテ150」をご覧になるか事務局にお問い合わせください。

メイン事業について

２００９年８月に緑の島において行われるメイン事業については、事業効果やその後の継続性について市民スタッフの間で活発な議論が行われてきました。実行委員会ではそれらを集約する形で「食」「音楽」「スポーツ」の３つのキーワードを事業の方向性として決定。

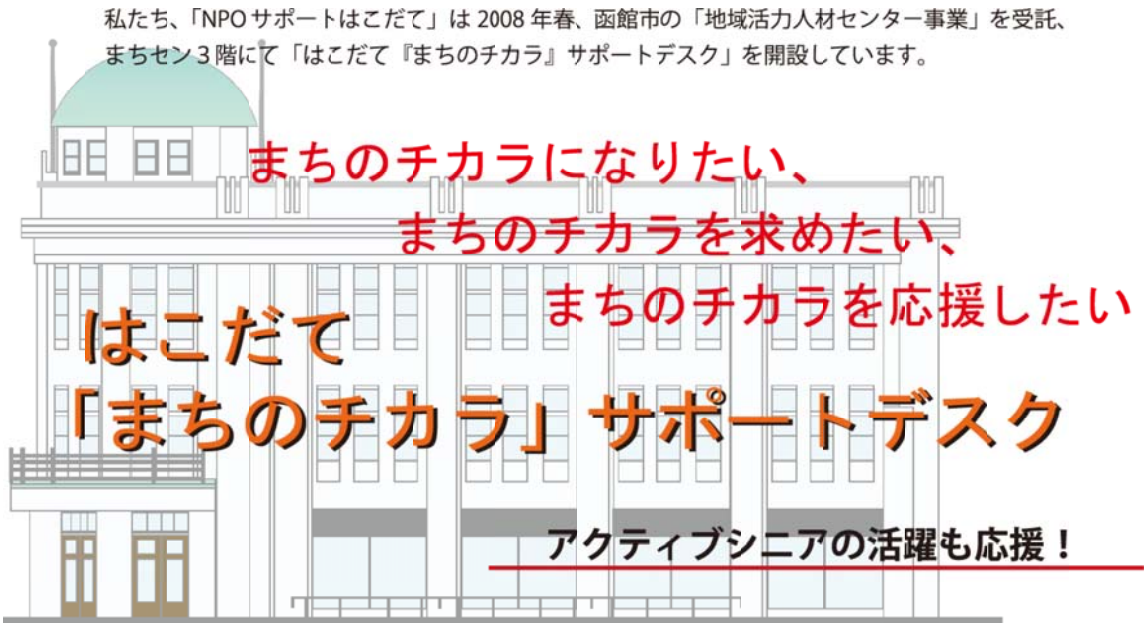
その後プロの演出家がそれらのキーワードに沿ったイベント案をまとめ、「国際見本市＆コンベンション ＨＡＫＯＤＡＴＥ国際フィッシャーマンズ・ショー」、「新しい函館の歌の制作＋１万人の大合唱・大演奏」、「函館市民オリンピック」の３点が実行委員会に提案されています。

このほか海と空に親しむ企画などがサブイベントとして提案されており、すべてのイベント案は実現に向けて調整が行われているところです。メイン事業の内容は２００９年１月半ばまでに公式発表される予定となっています。

＜公式サイトについて＞

函館開港150周年公式サイト「ハコダテ150」は、ボランティアの一般市民によって運営されています。開港150周年記念事業全般の進行状況を直ちに掲載し告知しているほか、函館の気になるお店や穴場情報、イベント情報やイベントレポート、季節の写真などが幅広く毎日更新されています。「ハコダテ150」で検索してください。

函館開港150周年記念事業実行委員会事務局
（函館市港湾空港部管理課内）0138（21）－3493



始めよう！「自分らしい生き方」さがし

―大量退職時代を迎えた団塊世代への期待 2―

● 函館市地域交流まちづくりセンター・遠藤洋一（61歳）

実は、団塊の世代、シニアなどと言われても、全くピンと来ていません。現役（今も現役ですが）の時の仕事仲間が、私の子供と同じくらいの方ばかりで、一生懸命仕事に遊びにと付き合っていたのです。そうでもしないと遙か歳の離れた自分の考えなど聞き入れてくれなくなるし、何よりも楽しかったので老け込んでる暇などなかったのです。おかげで彼らも私の年齢など気にする事も無くごく普通に接してました。それで気持ちや考え方も、いまだに若いと言うか幼稚なのではと思います。誰かに迷惑をかけてなければ、特に無理をして若作りしている訳ではないので良いかなと思ってます。

以前の職場は裏にある某老舗で、作業服かと思われるタキシード、蝶ネクタイでサービス員を指導する立場で、お客様に楽しんで頂くのを心情に頑張っていました。お客様にも顔を覚えて頂けて、行動したことがすぐに自分に跳ね返って来る楽しくも怖い仕事でした。

時代の流れか、サービスに対する考え方が上層部とはすれ違うようになり骨を埋めるつもりでいた職場でしたが、自分の考えているサービスが出来ないなら身を引くしかないと考える日々が続き、後先考えず飛び出してしまいました。もうサービス業には戻らないつもりでいた数年後、新しくレストランをオープンさせたいので、責任者として手伝って欲しいと誘いがあり一番好きな職種でもありますし、迷いながらも引き受けスタッフの教育を始めようとしたその日に、あろう事か心臓発作を虚血性心筋梗塞で緊急搬送、家族が呼ばれ、時間が立ちすぎ無理だろうと宣言され、皆があきらめかけたとき、なにかしら反応したらしくＩＣＵへ入り緊急手術。奇跡的に脳や四肢の運動には障害が残らず数ヶ月後退院出来ました。この状態で退院出来るのは２～３％の確率しかないらしいのです。若干の記憶を失ったのと、退院後様々なことが認識出来なくなる等の症状が出たりしました。

それで、一時期社会との接触が出来なくなり、今で言う引きこもりの状態が約一年続きました。みんなに迷惑をかけないで生きていくことが私の心情だったのですが、この時ばかりは心配や迷惑を沢山かけてしまいました。

リハビリに励み、何とか外へも出歩けるように成ったある日、以前の職場で数度お話したことのある「ひのき屋」と言う太鼓グループのコンサートを見に行く機会があり、太鼓の音が生きている喜びを胸一杯に感じさせてくれ、いつのまにか涙を流し感動していました。第一回はこだて国際民族芸術祭でのボランティア募集を知り、出来る範囲で手伝えたらと出かける事にし、この事が社会に復帰するきっかけに成りました。

まちセンにお世話に成った経緯は、その時に駅前の電停で偶然にも、やはり以前の職場で家族ぐるみでお世話に成っていたまちセンのヨコ爺こと横内氏とはち合わせ、後日お互いの近況報告と「ひのき屋」のボランティアの件を相談にいきました。とりあえず、体と精神的なリハビリのため、まちセン開催のＮＰＯまつりのボランティアを手伝うことになり、時間さえあれば、まちセンに出かけるように成りました。慣れてきた頃、私に声がかかりました。そんな訳で、私は今ここで新人丸出しで、来館された皆様のお手伝いをかろうじてさせていただいている訳です。サービスで培った経験が生かされていれば良いのですが、勉強不足でご迷惑をかけているのではないかと思います。体調も精神的にも社会に何とか順応し

てきて、まちセンで新たに出会った方々、以前の職場でお会いした方々と大勢の方にここで再会し、心配されながらも充実した日々を送らせていただいています。

以前から好奇心が強く、興味のあるものは試してみないと気が済まない性格が一層強くなった気がします。数十年続けているフライフィッシングは一緒に釣行する仲間も増えましたし、最近はアフリカ太鼓にも興味をもち、毎週木曜のワークショップに参加、またブルースハーモニカにギター、ブルーグラスのフィドルに興味のある方々とも一緒に練習に参加しています。音楽を聞くのも、音を出すのも（まだまだ演奏とは言えません）大好きで、頑張るつもりでいて、やはり老け込んでいる暇はありそうもないのです。

団塊の世代と言われている方々は多少時間が出来るわけですから、なにか真剣に取り組めることを見つけ、仕事仕事に追い回され、楽しむことを忘れていた時間を取り戻す努力をしてみませんか。まずは自分が今思っているより、まだまだず～と長いですし、やれることは沢山あります。勉強も良し、遊びも良し、時間が足りないくらい夢中になれる事をみつけ取り組んでみて下さい。ただし体調管理を怠ることの無いように、しっかり検診を受けて安心して行動することをお勧めします。

まちセンでも色々な講座が開催されています。函館山に登山しながらの野草、小動物、三十三観音などを観察。西部地区にとどまらない函館歴史散歩の会など、体力と気力、勉強心が必要な講座が沢山あります。自分の興味にあった講座を探して参加されてみてはいかがですか。まちセンスタッフが、出来るだけお手伝いいたします。

＜函館について＞

私は、卒業後すぐに函館を離れ、帰函後はバブル景気の始まり。バブルがはじけるまでの間は仕事、仕事で気がついたら、一番行動力のある時代に、ここ函館でまったく遊んでいなかった事に気がつきました。観光で行きたい町は何処ですか？というアンケートで函館は何番目だったかご存じですか。沢山の方が、ここ函館を選んでいるのです。正直ビックリされた方が多いのではないでしょうか？函館に暮らしている方々より、観光で函館へ来る方のほうが本当の函館の良さを知っているのではと思います。ネットで検索などして基礎知識、目的意識を持って来函される方が増えています。まちセンにいると自分の知らない場所や店などを訪ねられ、いかに函館の事を知らないか思い知らされます。

古き良き建物、通りなどドンドン消え失せて行きますね。先日も電車からよく見ていた土蔵が、工事用の幕がかかって何日もしない内に跡形も無く消えてました。何とか活かせなかったのか残念でたまりません。大都市では、そんな建物が素晴らしい店舗になったりして借り手も大勢居るようですし、見事に活かしている若者達も大勢います。ここ函館でもその様な建物を活かしたお店が頑張っていますが、まだ手つかずで朽ちて行くのを待っているような建物も沢山あります。どう活かして良いのか勉強する必要がありますね。維持をして行くのが大変なんだろうと思いますが、経験豊富な人材も含めて何とか活かす事も考えていかなくてはなりませんね。観光、観光と騒いでいるわりには、力の入れどころが間違っている気がしてなりません。一部の人間だけが頑張っても、ここ函館の良さは伝わらないのです。

函館を少しでも活気のある場所にと思われるなら、「私は観光事業者では無いから」と言っていられないのです。来函されたお客様を、今よく使われている『おもてなし』で、出来る範囲で良いですから実践して行かなければ、この先の函館は忘れられたものになってしまいますし、なってからでは取り戻せないのです。時間、余裕が多少出来た団塊世代がこれから続いて来る後輩、子供、孫のために、少しでも力を貸してあげられたら、観光客の皆さんが少しでも喜んで帰っていただけたら、ここ函館も捨てたもんじゃないねと言えると思うのですが。

はこだて『まちのチカラ』サポートデスクは、地域のチカラになりたい人の相談を受付けています。窓口は、年中無休　9：00～17：00　函館市地域交流まちづくりセンター３階に開設しています。お気軽にお立ち寄りください。

http://www.hakomachi.net

cafe オタジィラ 便り

染木加奈子

1人1人の気持ちを込めたリボンで、まちセンの“幸せを呼ぶもみの木”を飾ってください－と昨年に引き続きお呼びかけした「リボンを結ぶクリスマスツリー」。今年も色とりどりのリボンやサンタクロースの折り紙などで見事に彩られ、ツリー前ではメサイア合唱、ジャズ、フォーク、マリンバetc様々な音楽のコンサートが行われて、とってもにぎやかな12月となりました。毎日、目の前でたくさんのお客さまのリボンを結ぶ姿を見て、cafeオタジィラスタッフもあったかくて幸せな気持ちをいただきました。リボンや折り紙のご提供、そして気持ちを寄せてくださったみなさま本当にありがとうございます。1つ1つ結ばれたリボンの静かな（または情熱的な）気持ちでつくられた幸せなツリーを見て、２００８年の出来事をいろいろと思い出しました。重ねてありがとうございます。２００９年もみなさまのお越しをお待ちしております☆よろしくお願いいたします。

カフェ○ＰＥＮ：１０：３０－１８：００　定休日：水曜日
ブログ：URL：http://hakomachi.com/info07

センター長のつぶやき

丸藤　競

はやいもので、まちづくりセンターは2回目の新年を迎えました。

去年の今頃は、試行錯誤の真っただ中だったのですが、1年たった今も、やはり同じように試行錯誤の連続です。お陰様でお客様の数はかなり増え、出会いの回数も経験の幅もずいぶん増えましたが、より良い施設になるために、まだまだ勉強しなきゃならないことばかりです。

個人的には、神戸に行けたことが大きな収穫でした。大震災からの復興には市民の力が不可欠だったのですが、そこから多くの市民活動が生まれ、今でも先駆的な活動を活発に行っています。NPO発祥の地とも言える神戸に行き、市民の立場からまちを復興させてきた人達の現場の生の声を聞けたことは貴重な体験でしたし、学ぶことも多かったです。そこから得たものを函館のまちづくりにも役立てていきたいと考えています。

復興した神戸の街並みを見ると、人間は自然の脅威と同じくらい強く逞しく、生き抜く力を持っているのだと知らされます。そして、その中心にいつもいたのは、普通の市民でした。普通の市民があつまり、現場を見て、現場で考え、現場で行った様々な活動でした。私は、この“現場主義”を大切にしたいと考えていますし、まちづくりセンターを現場主義の施設にしたいと考えています。

今年も現場で様々なことが起こり、私も多くの体験をし、沢山のことを学ぶことができると思います。楽しみにしています。本年も、よろしくお願いいたします。

函館市地域交流まちづくりセンターは、

ＮＰＯやボランティアなどの活動の場、
市民交流の場、
地域情報の発信の場

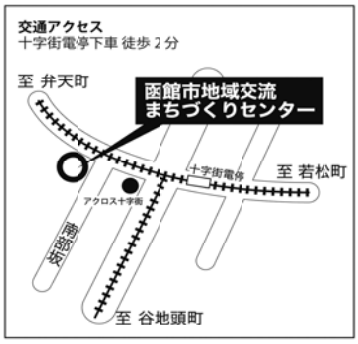
としてさまざまな市民の方にご利用いただけます。

市民活動やＮＰＯについて相談したい方
市民活動やＮＰＯの情報が欲しい方
市民活動やＮＰＯの会報やチラシを作りたい方
打ち合わせ場所がほしい方
研修会や展示会場を探している方
観光情報や地域情報が欲しい方
ご利用をおまちしております。

開館時間：午前9時～午後9時
休館日：年末年始（12/31～1/3）※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

フロア	区分	ご利用料金		備考
		単位	金額	
市民交流フロア／2F	研修室（A,B）	1室1時間までごとに	500円	24人利用可
	フリースペース	1日につき	10,000円	約272㎡
市民活動支援フロア／3F	会議室（A,B）	1室1時間までごとに	300円	24人利用可
	ロッカー（大）	1個1か月につき	400円	
	ロッカー（小）	1個1か月につき	200円	
駐車場		2時間無料、超過30分までごとに100円 ※駐車場は、南部坂側より入ることが出来ます。		

※情報発信フロア／1Fは、観光や地域の情報収集、休憩等で自由にご利用いただけます。
・フリースペースを営利目的で使用する場合は、割増料金になります。
・利用目的や利用団体によっては、研修室・フリースペース・会議室利用料金が減免になる場合があります。



函館市地域交流まちづくりセンター

（〒040-0053） 函館市末広町4番19号
TEL 0138-22-9700
FAX 0138-22-9800
E-mail toiawase@hakomachi.com
URL http://hakomachi.com/